

2017年度入学式 式辞

本日、尚絅学院大学、尚絅学院大学大学院の入学式を迎えられた皆さん、まことにおめでとうございます。心よりお祝いを申し上げ、歓迎をいたします。

本日入学された皆さんの多くは、6年前のあの東日本大震災の直後に中学校へと進まれた世代だと思います。震災後の様々な痛みや試練を乗り越えて勉学に励み、今日の栄えある大学入学の日を迎えられた、その地道な努力と、高い志に、心から敬意を表します。

またそのような若い歩みを見守り、自分のこと以上にその幸せを願い、大切に支え導いてこられた、保護者、ご家族の皆様におかれましても、今日までの長い道のりを振り返れば、言葉では言い尽くせぬ感慨があらぬことと拝察申し上げます。心からお喜びを申し上げます。

(尚絅学院の歴史と建学の精神)

尚絅学院は、明治25年に、米国から派遣された宣教師によって設立されて以来、今年125周年を迎える、伝統のある学校です。尚絅とは、絅を尚えると読みます。中国の古典にある「衣錦尚絅」（錦を衣て絅を尚う）という言葉から採られたものです。内には錦を着て、つまり人間の内面を磨いて、しかしそれを絅、つまり薄い衣で包んでひけらかさない、そういう謙虚な生き方の大切さを述べたものです。

しかし、単に謙虚であるということだけを言っているわけではありません。「衣錦尚絅」に続けてこの『中庸』という書物は、「君子の道は闇然として日々に章かなり」と述べています。つまり、立派な人間というのは、一見したところその立派さがよくわからないけれども、やがて人々に明らかに知られるようになる、ということです。それは、既存の価値観やその時々の見かけの評価にとらわれず、見えないものに価値を置き、全ての隣人と共に歩もうとする、キリスト教の自由な精神に通じるものでもあります。

本学は、そのようなキリスト教の精神を土台として、自らを磨き、他者と共に生きることを志す、そういう人間の育成を建学の精神とし、永い伝統に根差すと同時に、2003年に、男女共学の4年制大学として新しくスタートした、若い大学でもあります。皆さんはその第15期生ということになります。

(本学の教育)

さて、皆さんが大学での学びに期待しているものは何でしょうか。学歴、資格、就職、あるいは課外活動や友人との楽しいキャンパスライフなど様々でしょうが、しかしその核心にあるのは、夢の実現を目指して自分の人生を自ら切り拓いていく、本当の実力ではないでしょうか。皆さんの先輩は、全国的に見ても極めて高い国家試験合格率や進路決定率などの実績を挙げていますが、それは、本学での学びの中で、学生が身につけた基礎力と教養の一つの結果に過ぎません。

本学の中期計画では、東北の未来を支える「総合的な人間力」の育成を目指し、少人数で実践的な教育、グローバル時代に対応する能力の育成を推進することとしています。「総合的な人間力」というと少しいかめしく聞こえるかもしれませんが、わかりやすく言えば、専攻分野における基礎的な

教養だけでなく、身の回りにいる人たちの思いに共感し、ささやかでも地域や社会のために、力を合わせて行動していこうとする力、と言っていいと思います。

つい2週間余り前、この同じ会場で卒業の日を迎えた一人の学生は、4年前、入学したときは、人前で話をするのが苦手な、内気な性格だったそうです。その彼女が、入学してしばらくたったある日、ボランティア・ステーションの活動に参加しました。積極的な意思で、というより、友達に誘われて、軽い気持ちでついていったのだそうです。そこで、彼女は、一緒に参加していた神戸の学生たちに出会います。震災から20年以上経ってなお、震災の教訓から学び、伝えていこうとする彼らの情熱的な姿に衝撃を受け、彼女は、「これはとてもかなわない」と思ったそうです。と同時に、「でも、私たちも負けてはいられない」と強く感じたそうです。

その頃から彼女は少しずつ変わり始めたようです。心の中に湧いてくるたくさんの「今はできない理由」、「自分には無理という思い」を一切、全部捨てることにした、というのです。そして、地元での子供たち対象の防災キャンプに参加します。そこで、彼女は、別の活動で知り合ったメンバーに再会し、また新たに尊敬できるメンバーに出会います。

出合いがつながり、そして広がっていきました。

そんな経験の中で、彼女にとってボランティア活動は、無理に頑張る何か特別の「いいこと」ではなく、楽しくやりがいの感じられる、一つの自分なりの選択、という感覚に変わっていったそうです。気負いもてらいもなく、そんな経験を淡々と語る姿からは、4年前の内気な自分からは想像もできない、成長した自分に納得している様子が、爽やかに、少しまぶしく感じられました。

彼女のケースは、この大学のあちこちで毎日のように起きている、たくさんの小さな物語の一つの例に過ぎません。人数は多くはないけれど、いろいろな専門分野の、多様な興味関心を持った学生たちが、一つのキャンパスで、様々な活動を展開しているこの大学では、ごく身近なところに、たくさんの可能性が皆さんを待っています。しかし、可能性が待っているというだけでは何も実現しません。最初は、ほんのささやかな一歩でいいのです。皆さんがその可能性を掴み、行動する、アクションを起こすことが必要なのです。それが、自分の中で出番を待っている、成長しようとする力を引き出してくれるのです。

カンボジアへの研修旅行をきっかけに、海外での保育を志して上海へと飛び立つ物語。病に苦しむ人たちの力になりたいと、友達と励まし合いながら国家試験を目指す物語。尚綱学院大学の学び舎に集う仲間として、心のうちに尚綱の伝統と誇りを共有しつつ、社会に貢献する志を持って、新しい大学の歴史を共に創っていく、学生の数だけある一つ一つの物語の、皆さんがその主人公です。皆さんの学びを、教職員はもとより後援会や同窓会、地域の多くの人たちが応援しています。

これから始まる学生生活が、希望に満ちた、充実したものとなるように、皆さんが今日からつづる一つ一つの物語の上に、神の豊かな祝福を心から祈り、2017年度入学式の式辞といたします。

2017年4月4日

尚綱学院大学学長 合田隆史

